

今期設備投資3億円

クラッド 圧延機 電気制御を高度化

特殊金属エクセル

特殊鋼やステンレスの冷間圧延加工などを手掛ける、特殊金属エクセル（本社 東京都豊島区、谷口毅社長兼CEO）は今期（2021年12月期）、合計3億円規模の設備投資を行う。国内コア製造拠点の埼玉事業所埼玉県ときがわ町で、太陽光発電システムの追加導入に加え、クラッド圧延機の電気制御の高度化投資により、品質向上と生産性アップを目指す。また、付加価値の高い金属箔の技術革新投資も検討している。

太陽光発電システム増設

20年12月期決算について、特殊金属エクセルと海外事業会社4社を含めた高機能材料事業の連結売上高は84億円と前期比5%の減収、経常利益は同11%の減益。特殊金属エクセル単体の決算は売上高が同8%減の51億円、経常利益は7%の減益となった。新型コロナウイルス感染症影響を受けたものの、高機能材料事業会社は全社黒字を確保している。

特鋼は繊維機械部品用を主体に生産・販売が好調で、差別化商品の販売量が前期比24%増加し、2期連続で過去最高益を更新。香港特金もモバイル端末向け電子部品材料が堅調に推移し、過去最高益を更新した。

益分岐点を2割程度引き下げた。また埼玉事業所でトータル約2億円の投資を実施。複合設備を導入している。

特殊金属エクセルは今期、コロナ感染状況の収束を見通すことが難しく、これを前提として収益計画を策定した（谷口CEOと）、特殊金属エクセルと海外事業会社4社を含めた高機能材料事業の連結売上高は前期比6%の減収、経常利益は同9%の減益としたが、足元は想定を大幅に上回る進捗となっている。

前期は新型コロナウイルス感染拡大を受けて緊急収益改善策を実行し、経費や製造コストを1億5000万円程度圧縮するなど、損

海外は、磨帯鋼の圧延加工を行う上海隆興

機能材料事業会社は全社黒字を確保している。